

Sophos Enterprise Console クイック スタートアップガイド

製品バージョン: 5.0

ドキュメント作成日: 2012年 2月



目次

1 このガイドについて.....	3
2 インストールするソフトウェア.....	3
3 導入ステップ.....	3
4 システム要件.....	4
5 必要なアカウント.....	6
6 インストールの準備.....	7
7 インストーラのダウンロード.....	7
8 Enterprise Console のインストール.....	8
9 セキュリティソフトのダウンロード.....	8
10 NAC Manager のインストール.....	9
11 コンピュータグループの作成.....	10
12 セキュリティポリシーの設定.....	10
13 コンピュータの検出.....	11
14 コンピュータの保護の事前準備.....	12
15 コンピュータの保護.....	13
16 ネットワークのセキュリティの状態の確認.....	15
17 トラブルシューティング.....	16
18 よく実行するタスクと関連ドキュメント.....	16
19 テクニカルサポート.....	17
20 ご利用条件.....	17

1 このガイドについて

このガイドは、ソフォスのセキュリティソフトを使用してネットワークを保護する方法について説明します。

ソフォス製品を新規インストールする場合はこのガイドをお読みください。

アップグレードを行う場合は、Sophos Enterprise Console のインストーラをダウンロード・実行してください。表示される指示に従ってアップグレードを行います。詳細は[インストーラのダウンロード](#) (p.7) をご覧ください。

ヒント: ネットワークの規模が大きい場合は、「**Sophos Enterprise Console アドバンススタートアップガイド**」に記載されているインストールオプションもご覧ください。

2 インストールするソフトウェア

次の2種類の管理ツールをインストールします。

- **Sophos Enterprise Console:**各コンピュータにセキュリティ対策ソフトを集中的にインストールし、インストールしたソフトウェアを管理します。
- **Sophos NAC Manager:**「ネットワーク アクセス コントロール」機能を提供し、未認証のコンピュータや、組織のセキュリティポリシーに準拠していないコンピュータのネットワークへのアクセスをブロックします。

NAC Manager のインストールは任意です。

ヒント: 2種類の異なるセットアッププログラムを使って各ツールをインストールします。

ヒント: 両方のツールを同じサーバーにインストールすることもできます。ただし、コンピュータが1,000台以上ある場合は、別々のサーバーにインストールしてください。手順は同じです。

3 導入ステップ

主な導入ステップは次のとおりです。

- システム要件を確認する。
- 必要なアカウントを作成する。

- インストールの準備をする。
- インストーラをダウンロードする。
- Enterprise Console をインストールする。
- セキュリティソフトをダウンロードする。
- NAC Manager をインストールする。
- コンピュータグループを作成する。
- セキュリティポリシーを設定する。
- コンピュータを検出する。
- コンピュータの保護の事前準備をする。
- コンピュータを保護する。
- ネットワークのセキュリティの状態を確認する。

4 システム要件

インストールを開始する前に、ハードウェア、OS、およびシステムソフトウェアのシステム要件を確認してください。

4.1 ハードウェアおよび OS

本製品のシステム要件は、ソフォス Web サイトの「システム要件」(<http://www.sophos.co.jp/products/all-sysreqs.html>) を参照してください。

4.2 マイクロソフトのシステムソフトウェア

Enterprise Console のインストールには、データベースソフトなど、特定のマイクロソフトのシステムソフトウェアが必要です。

このようなシステムソフトウェアが対象のサーバーにインストールされていない場合は、Enterprise Console の製品インストーラが自動的にシステムソフトウェアのインストールを開始します。ただし、サーバーとシステムソフトウェアに互換性がない場合は手動によるインストールが必要です。

SQL Server のインストール

SQL Server 2005 Express 以降がインストールされていない場合は、インストーラが自動的に SQL Server 2008 Express のインストールを開始します。以下の点に注意してください。

- SQL Server はドメインコントローラ以外のコンピュータにインストールすることを推奨します。
- SQL Server 2008 Express は、Windows Server 2003 SP1 や Windows Essential Business Server 2008 と互換性がありません。
- Windows Server 2008 R2 Datacenter では、ドメイン機能レベルを Windows Server 2003 に上げる必要があります。詳しくは次のサイトを参照してください。 <http://support.microsoft.com/kb/322692>

.NET Framework のインストール

.NET Framework 3.5 SP1 がインストールされていない場合は、インストーラが自動的にインストールを開始します。以下の点に注意してください。

- この製品のインストーラを使って、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2008 SP1 を実行しているコンピュータに .NET Framework 3.5 SP1 をインストールすることはできません。この場合、「サーバーマネージャ」の「機能」セクションから追加する必要があります。

ヒント: 必要なシステムソフトウェアをインストール後、コンピュータの再起動が必要となることがあります。詳細はソフォスサポートデータベースの文章 65190 を参照してください。

(<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/65190.html>)

Microsoft メッセージキューのインストール

MSMQ (Microsoft メッセージキュー) がインストールされていない場合は、インストーラが自動的にインストールを開始します。以下の点に注意してください。

- MSMQ のインストール中、次のサービスが停止します。MSDTC、MSSQLServer、SQLSERVERAGENT。このため、デフォルトの SQL Server データベースとの接続が中断されます。

インストール中、これらのサービスが停止しても問題がないことを確認してください。また、操作終了後、サービスが再開したことも確認してください。

5 必要なアカウント

ソフォス製品をインストールする前に、以下のユーザーアカウントを作成する必要があります。

- **データベース用アカウント:**Enterprise Console の管理サービスがデータベースに接続するためのアカウントです。他の Sophos サービスも使用します。
- **Update Manager アカウント:**エンドポイント コンピュータが Enterprise Console が製品アップデート版を配置するフォルダにアクセスするためのアカウントです。

5.1 データベース用アカウント

データベース用アカウントが次の要件を満たすことを確認してください。

- Sophos 管理サーバー (Enterprise Console のコンポーネント) のインストール先コンピュータにログオンする権限がある。
- システムの一時ディレクトリ (\windows\temp\ など) に読み取り権限と書き込み権限がある。「Users」グループのメンバーには、デフォルトでこの権限があります。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。

これ以外に必要な権限およびグループのメンバーシップは、インストール時に自動的に付与されます。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 期限切れしない設定にする。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- インストール後、アカウントを変更しない。

詳細はソフォス サポートデータベースの文章 113954 を参照してください。
(<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/113954.html>)

5.2 Update Manager アカウント

Update Manager アカウントは、Enterprise Console が製品アップデート版を配置するフォルダへの読み取り権限が必要です。デフォルトで、このフォルダは \\[サーバー名]\SophosUpdate です。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 期限切れしない設定にする。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。

詳細はソフォス サポートデータベースの文章 113954 を参照してください。
(<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/113954.html>)

6 インストールの準備

システム要件を満たしているサーバーを選び、次のような準備を行います。

- インターネットに接続していることを確認します。
- Windows OS の製品付属 CD とサービスパック CD があることを確認します。インストール中に必要になる場合があります。
- Windows Server 2008 以降を実行しているサーバーの場合は、ユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にし、サーバーを再起動します。

ヒント: UAC は、インストールを完了し、セキュリティソフトをダウンロードした後で、有効に設定し直すことができます。

7 インストーラのダウンロード

ヒント: インストーラは任意のコンピュータにダウンロードし、その後、ソフトウェアをインストールするコンピュータにコピーすることもできます。

1. <http://www.sophos.co.jp/support/updates/> にアクセスします。
2. MySophos アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
3. **Enterprise** の製品ダウンロードページで、次の操作を実行します。
 - Enterprise Console のインストーラをダウンロードします。
 - NAC Manager を利用する場合は、Sophos NAC のインストーラをダウンロードします。
4. 任意のコンピュータにダウンロードした場合は、ソフトウェアのインストール先コンピュータにインストーラをコピーします。
または、CD や DVD にインストーラをコピーし、インストール先コンピュータで使います。

8 Enterprise Console のインストール

Enterprise Console をインストールする方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console をインストールするコンピュータに管理者権限でログオンします。
 - サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
 - サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。
2. 先にダウンロードした Enterprise Console のインストーラを参照します。

チップ: インストーラのファイル名には「sec」という文字列が含まれません。
3. インストーラをダブルクリックします。
4. 「インストール」ボタンが表示されたらクリックします。

インストールファイルがコンピュータにコピーされ、ウィザードが起動します。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。次の手順を実行してください。
 - a) 可能な限り、デフォルトの設定をそのまま選択します。
 - b) 「コンポーネントの選択」ページで、すべてのコンポーネントが選択されていることを確認します。
 - c) 「データベースの詳細」ページで、Enterprise Console をインストールするコンピュータにアクセスできるアカウントの詳細を入力します。管理者アカウントは使用しないでください。
6. インストールが完了すると、再起動するようメッセージが表示されることがあります。「はい」または「完了」をクリックします。

9 セキュリティソフトのダウンロード

インストール後、はじめてログオン(または再起動)すると、Enterprise Console が自動的に開き、ウィザードが起動します。

ヒント: リモートデスクトップを使用してインストールした場合、コンソールは自動的に開かないので、「スタート」メニューから開いてください。

ウィザードの指示に従い、セキュリティソフトを選択・ダウンロードします。次の手順を実行してください。

1. 「**ソフォス ダウンロード用アカウントの詳細**」ページで、ライセンスの別表(License Schedule)に記載されているユーザー名とパスワードを入力します。プロキシサーバー経由でインターネットにアクセスする場合は、「**プロキシ経由でサーバーにアクセスする**」チェックボックスを選択します。
2. 「**OSの選択**」ページで、今すぐ保護する OS のみ選択します。
「**次へ**」をクリックすると、Enterprise Consoleは選択したソフトウェアのダウンロードを開始します。
3. 「**ソフトウェアをダウンロードしています**」ページに、ダウンロードの進行状況が表示されます。随時、「**次へ**」をクリックします。
4. Enterprise Console で既存の Active Directory のコンピュータのグループを利用する場合は、「**Active Directoryからコンピュータをインポートします**」ページで、「**コンピュータグループを設定する**」を選択します。

インストールの前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

10 NAC Manager のインストール

Windows OS の製品付属 CD とサービスパック CD があることを確認します。インストール中に必要になる場合があります。

ヒント: NAC Manager を Enterprise Console とは別のサーバーにインストールした場合、まず、SQL Server 2005 以降のデータベースを手動インストールしてください。

1. NAC Manager をインストールするコンピュータに管理者権限でログオンします。
 - サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
 - サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

2. 先にダウンロードした Sophos NAC のインストーラを参照します。
 チップ: インストーラのファイル名には「nac」という文字が含まれます。
3. インストーラをダブルクリックします。
4. 「**Sophos NAC Manager**」ダイアログボックスで、「**Install**」(インストール)をクリックします。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。

11 コンピュータグループの作成

「セキュリティソフトのダウンロード」ウィザードを使用して、(Active Directory のグループを基に) コンピュータグループを設定した場合は、ここで説明する操作は必要ありません。 [セキュリティポリシーの設定](#) (p. 10) に進んでください。

コンピュータを保護・管理する前に、コンピュータのグループを作成する必要があります。

1. Enterprise Console が開いていなければ、開きます。
2. コンソールの左側にある「**グループ**」ペインで、最上部に表示されているサーバーが選択されていることを確認します。
3. ツールバーで、「**グループの作成**」アイコンをクリックします。
 「新規グループ」がリストに追加され、グループ名がハイライト表示されます。
4. グループ名を入力します。

さらにグループを作成する場合は、左ペインで次のように操作します。トップレベルのグループを再度作成するには、ツリー最上部のサーバー名を選択します。サブグループを作成するには、既存のグループ名を選択します。次に、先程と同じ手順でグループを作成し、グループ名を入力します。

12 セキュリティポリシーの設定

Enterprise Console は、各種の「デフォルト」というセキュリティポリシーをコンピュータのグループに適用します。これらのデフォルトポリシーに必要な設定は以下のとおりです。これ以外の変更は任意です。

- ファイアウォールポリシーは、すぐに設定する必要があります。

- NAC (ネットワーク アクセス コントロール)、アプリケーション コントロール、データコントロール、デバイスコントロール、または Web コントロール機能を使用するには、該当するポリシーを編集してください。操作は、いつ行っても構いません。

12.1 ファイアウォールポリシーを設定する

ヒント: ファイアウォールのインストール中、ネットワークアダプタが一時的に切断されます。また、リモートデスクトップなどのネットワークアプリケーションが切断されることがあります。

デフォルトの設定では、ファイアウォールは重要な接続以外はすべて遮断します。したがって、各コンピュータに設定を適用して保護する前に、ファイアウォールポリシーの設定を行う必要があります。

1. 「ポリシー」 ペインで、「ファイアウォール」を右クリックし、「ポリシーの作成」を選択します。
「新規ポリシー」がリストに追加され、ポリシー名がハイライト表示されます。使用するグループ名を入力します。
2. ポリシーをダブルクリックして編集します。
ウィザードが起動します。
3. 「ファイアウォールのポリシー ウィザード」で、次のように設定することを推奨します。
 - a) 「ファイアウォールの環境設定」 ページで、接続場所に応じて、異なるファイアウォールの設定を使い分ける場合以外は、「1種類の設定(固定マシン用)」を選択します。
 - b) 「操作モード」 ページで、「受信トラフィックをブロックし、送信トラフィックを許可する」を選択します。
 - c) 「ファイルとプリンタの共有」 ページで、「ファイルとプリンタの共有を許可する」を選択します。

13 コンピュータの検出

Enterprise Console でコンピュータの保護・管理を行うには、まずネットワーク上のコンピュータを検索する必要があります。

1. ツールバーにある「コンピュータの検出」アイコンをクリックします。

2. コンピュータの検索方法を選択してください。
3. 適宜、アカウントの詳細を入力し、検索場所を指定します。

「検出」オプションのいずれかを選択すると、検出されたコンピュータは「グループ外のコンピュータ」フォルダに追加されます。

14 コンピュータの保護の事前準備

コンピュータの保護を開始する前に、コンピュータで以下のような準備をする必要があります。

- 他社製セキュリティ対策ソフトを削除するための準備をする。
- ソフトウェアをインストールできるアカウントがあることを確認する。
- ウイルス対策ソフトをインストールするための準備をする。
- ネットワーク アクセス コントロールをインストールするための準備をする。

14.1 他社製セキュリティ対策ソフトを削除するための準備をする

現在インストールされているセキュリティソフトをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

- 他社製のウイルス対策ソフトを実行している場合は、その GUI が閉じていることを確認する。
- 他社製のファイアウォールや HIPS 製品を実行している場合は、これらのソフトウェアを無効にするか、またはソフォスのインストーラの起動を許可するように設定する。

他社製のアップデートツールを実行している場合は、削除した方がよい場合があります。詳細は、Enterprise Console ヘルプの「コンピュータの保護」セクションの「他社製セキュリティ対策ソフトを削除する」を参照してください。

14.2 ソフトウェアをインストールできるアカウントがあることを確認する

セキュリティソフトのインストール中に、アカウントの詳細を入力する画面が表示されます。このアカウントは通常、ドメイン管理者アカウントです。次の条件を満たしている必要があります。

- 保護するコンピュータへのローカル管理者権限がある。
- Enterprise Console をインストールしたコンピュータにログオンできる権限がある。
- コンピュータのアップデート元に対する読み取り権限がある。アップデート元がどこかを確認するには、「ポリシー」ペインで、「アップデート」をダブルクリックし、次に、「デフォルト」をダブルクリックします。

14.3 ウイルス対策ソフトをインストールするための準備をする

ウイルス対策ソフトをインストールするためのコンピュータの準備を行う必要があります。

Active Directory を使用している場合は、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使ってコンピュータの準備を行うことができます。手順については、ソフォス サポートデータベースの文章 111180 を参照してください。
(<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/111180.html>)

ワークグループを使用している場合は、ローカルで各コンピュータの準備を行う必要があります。手順については、ソフォス サポートデータベースの文章 29728 を参照してください。
(<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/29728.html>)

14.4 ネットワーク アクセス コントロールをインストールするための準備をする

ネットワーク アクセス コントロールを各コンピュータにインストールする前に、次の設定を行う必要があります。

- NAC Manager をインストールしたコンピュータの URL を指定する。
Enterprise Console で、「ツール > NAC URL の環境設定」を選択します。

15 コンピュータの保護

この項では、次の事柄について説明しています。

- Windows コンピュータを自動保護する。

- Windows コンピュータや Mac を手動で保護する。

15.1 Windows コンピュータを自動保護する

コンピュータを保護するには次の手順を実行してください。

1. 保護するコンピュータを選択します。
2. 右クリックして、「**コンピュータの保護**」を選択します。

ヒント: コンピュータが「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに表示されている場合は、適切なグループにドラッグします。
3. ウィザードの指示に従ってソフォスのセキュリティソフトをインストールします。次の手順を実行してください。
 - a) 「**機能の選択**」ページで、任意の機能を選択できます。ネットワークアクセスコントロール機能を使用する場合は、「**Compliance Control**」を選択します。
 - b) 「**保護のサマリー**」ページで、インストール中に問題が発生したかどうか確認します。詳細は、[トラブルシューティング](#) (p. 16) を参照してください。
 - c) 「**アカウント情報**」ダイアログボックスで、各コンピュータへのソフトウェアのインストールに使用できるアカウントの詳細を入力します。

インストールは全コンピュータで同時に開始されないため、操作がすべて完了するまで時間がかかることがあります。

インストール完了後、コンピュータのリストをもう一度確認します。「**オンアクセス**」カラムに「**アクティブ**」と表示されれば、コンピュータでオンアクセスのウイルス検索が実行されています。

15.2 Windows コンピュータや Mac を手動で保護する

自動保護できないコンピュータがある場合は、セキュリティソフトがダウンロードされている共有フォルダ内のインストーラを手動で実行して保護します。このフォルダの通称は「**インストーラの場所**」です。

保護を実施するコンピュータで管理者アカウントを使用する必要があります。

Windows コンピュータや Mac を手動で保護する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console の「表示」メニューで、「インストーラの場所」をクリックします。

インストーラの場所の一覧が表示されます。保護を実施する各 OS のインストーラの場所をメモします。

2. 保護を実施する各コンピュータで、インストーラの場所を参照し、インストーラをダブルクリックします。

- Windows コンピュータ用のインストーラ: setup.exe

- Mac 用のインストーラ: Sophos Anti-Virus.mpkg

ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

- 「ユーザーアカウントの詳細」ページに、先に指定した Update Manager への接続用アカウントの詳細を入力します。このアカウントは Enterprise Console をインストールしたときに設定したものです。

チップ: どのアカウントかよくわからない場合は、「インストーラの場所」にアクセスできる、権限の低い任意のアカウントを使用します。後で、Enterprise Console によって正しいアカウントの詳細を含むアップデートポリシーが適用されます。

16 ネットワークのセキュリティの状態の確認

Enterprise Console でネットワークのセキュリティの状態を確認するには次の手順を実行します。

1. メニューバーの「ダッシュボード」アイコン (ダッシュボードが表示されていない場合は) をクリックします。

ダッシュボードには次の情報が表示されます。

- 「警告を発したコンピュータ」の台数。
- 「最新版が適用されていないコンピュータ」の台数。
- 「ポリシーと異なるコンピュータ」の台数。

2. また、NAC を使用している場合は、次のようにしてセキュリティの状態を確認できます。
 - a) 「ファイル > 開く > NAC」を選択します。
 - b) NAC Manager で、「Report > Compliance」(レポート - コンプライアンス)を選択します。

コンピュータの NAC ポリシーに対する準拠状況が表示されます。

17 トラブルシューティング

「コンピュータの保護」ウィザードを実行した際に、セキュリティソフトのインストールに失敗することがありますが、考えられる原因は次のとおりです。

- 使用している OS で自動インストールを実行することができない。この場合は、手動でインストールを行います。詳細は、[Windows コンピュータや Mac を手動で保護する](#) (p. 14) を参照してください。他の OS に関しては、「Sophos Enterprise Console スタートアップガイド Linux/NetWare/UNIX 版」を参照してください。
- OS が認識されない。これは、コンピュータの検索を行った際に、「ドメイン\ユーザー名」形式でユーザ名を入力しなかったことが原因の場合があります。
- コンピュータで他のファイアウォールが起動している。

18 よく実行するタスクと関連ドキュメント

よく実行するタスクの操作手順は、次のドキュメントを参照してください。

SEC = Sophos Enterprise Console

タスク	参照するドキュメント
Linux コンピュータの保護	SEC 5.0 スタートアップガイド Linux/NetWare/UNIX 版: 「Linux コンピュータの保護」
スタンドアロンコンピュータを保護する	SEC 5.0 アドバンス スタートアップガイド: 「スタンドアロン コンピュータの保護」

タスク	参照するドキュメント
Enterprise Console のポリシーを設定する	Enterprise Console ヘルプ: 「ポリシーの設定」
NAC を設定する	NAC Manager ヘルプ: 「管理の概要」
ゲストユーザーにネットワークアクセスを許可する	Sophos Compliance Agent 環境設定ガイド: 「Dissolvable Agent」
警告に対処する	Enterprise Console ヘルプ: 「警告やエラーの対処」
コンピュータをクリーンアップする	Enterprise Console ヘルプ: 「コンピュータのクリーンアップ」
SEC レポートを作成する	Enterprise Console ヘルプ: 「ポリシーの作成」
NAC レポートを作成する	NAC Manager ヘルプ: 「レポートの概要」

19 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- 「SophosTalk」 ユーザーフォーラム (英語) (<http://community.sophos.com/>) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォスサポートデータベースのご利用。 <http://www.sophos.co.jp/support/>
- 製品ドキュメントのダウンロード。 <http://www.sophos.co.jp/support/docs/>
- メールによるお問い合わせ。ソフォス製品のバージョン番号、OS および適用しているパッチの種類、エラーメッセージの内容などを、 support@sophos.co.jp までお送りください。

20 ご利用条件

Copyright © 2009-2012 Sophos Limited. All rights reserved. この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを

許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos および Sophos Anti-Virus は、Sophos Limited の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

ACE™, TAO™, CIAO™, and CoSMIC™

ACE¹, TAO², CIAO³, and CoSMIC⁴ (henceforth referred to as "DOC software") are copyrighted by Douglas C.Schmidt⁵ and his research group⁶ at Washington University⁷, University of California⁸, Irvine, and Vanderbilt University⁹, Copyright © 1993-2005, all rights reserved.

Since DOC software is open-source, free software, you are free to use, modify, copy, and distribute—perpetually and irrevocably—the DOC software source code and object code produced from the source, as well as copy and distribute modified versions of this software. You must, however, include this copyright statement along with code built using DOC software.

You can use DOC software in commercial and/or binary software releases and are under no obligation to redistribute any of your source code that is built using DOC software. Note, however, that you may not do anything to the DOC software code, such as copyrighting it yourself or claiming authorship of the DOC software code, that will prevent DOC software from being distributed freely using an open-source development model. You needn't inform anyone that you're using DOC software in your software, though we encourage you to let us¹⁰ know so we can promote your project in the DOC software success stories¹¹.

DOC software is provided as is with no warranties of any kind, including the warranties of design, merchantability, and fitness for a particular purpose, noninfringement, or arising from a course of dealing, usage or trade practice. Moreover, DOC software is provided with no support and without any obligation on the part of Washington University, UC Irvine, Vanderbilt University, their employees, or students to assist in its use, correction, modification, or enhancement. A number of companies¹² around the world provide commercial support for DOC software, however. DOC software is Y2K-compliant, as long as the underlying OS platform is Y2K-compliant.

Washington University, UC Irvine, Vanderbilt University, their employees, and students shall have no liability with respect to the infringement of copyrights, trade secrets or any patents by DOC software or any part thereof. Moreover, in no event will Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University, their employees, or students be liable for any lost revenue or profits or other special, indirect and consequential damages.

The ACE¹³, TAO¹⁴, CIAO¹⁵, and CoSMIC¹⁶ web sites are maintained by the DOC Group¹⁷ at the Institute for Software Integrated Systems (ISIS)¹⁸ and the Center for Distributed Object Computing of Washington University, St. Louis¹⁹ for the development of open-source software as part of the open-source software

community²⁰. By submitting comments, suggestions, code, code snippets, techniques (including that of usage), and algorithms, submitters acknowledge that they have the right to do so, that any such submissions are given freely and unreservedly, and that they waive any claims to copyright or ownership. In addition, submitters acknowledge that any such submission might become part of the copyright maintained on the overall body of code, which comprises the DOC software. By making a submission, submitter agree to these terms. Furthermore, submitters acknowledge that the incorporation or modification of such submissions is entirely at the discretion of the moderators of the open-source DOC software projects or their designees.

The names ACE, TAO, CIAO, CoSMIC, Washington University, UC Irvine, and Vanderbilt University, may not be used to endorse or promote products or services derived from this source without express written permission from Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University. Further, products or services derived from this source may not be called ACE, TAO, CIAO, or CoSMIC nor may the name Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University appear in their names, without express written permission from Washington University, UC Irvine, and Vanderbilt University.

If you have any suggestions, additions, comments, or questions, please let me²¹ know.

Douglas C. Schmidt²²

References

1. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE.html>
2. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/TAO.html>
3. <http://www.dre.vanderbilt.edu/CIAO/>
4. <http://www.dre.vanderbilt.edu/cosmic/>
5. <http://www.dre.vanderbilt.edu/~schmidt/>
6. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE-members.html>
7. <http://www.wustl.edu/>
8. <http://www.uci.edu/>
9. <http://www.vanderbilt.edu/>
10. mailto:doc_group@cs.wustl.edu
11. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE-users.html>
12. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/commercial-support.html>
13. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/ACE.html>
14. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/TAO.html>
15. <http://www.dre.vanderbilt.edu/CIAO/>
16. <http://www.dre.vanderbilt.edu/cosmic/>
17. <http://www.dre.vanderbilt.edu/>
18. <http://www.isis.vanderbilt.edu/>
19. <http://www.cs.wustl.edu/~schmidt/doc-center.html>
20. <http://www.opensource.org/>
21. <mailto:d.schmidt@vanderbilt.edu>

22. <http://www.dre.vanderbilt.edu/~schmidt/>

Apache

The Sophos software that is described in this document may include some software programs that are licensed (or sublicensed) to the user under the Apache License. A copy of the license agreement for any such included software can be found at <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>.

Boost

Version 1.0, 17 August 2003

Permission is hereby granted, free of charge, to any person or organization obtaining a copy of the software and accompanying documentation covered by this license (the "Software") to use, reproduce, display, distribute, execute, and transmit the Software, and to prepare derivative works of the Software, and to permit third-parties to whom the Software is furnished to do so, all subject to the following:

The copyright notices in the Software and this entire statement, including the above license grant, this restriction and the following disclaimer, must be included in all copies of the Software, in whole or in part, and all derivative works of the Software, unless such copies or derivative works are solely in the form of machine-executable object code generated by a source language processor.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE AND NON-INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR ANYONE DISTRIBUTING THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Common Public License

このドキュメントで言及されているソフォスのソフトウェアには、一般公衆利用許諾契約書 (Common Public License、あるいは単に CPL) に基づいてユーザーの使用が許諾(またはサブライセンス)されているソフトウェア・プログラムが含まれています。または含まれている可能性があります。CPLに基づき使用が許諾され、オブジェクトコード形式で頒布されるいかなるソフトウェアも、CPLにより、オブジェクトコード形式のユーザーへの、このようなソフトウェアのソースコードの開示が義務付けられています。CPLに基づくこのようなソフトウェアのソースコードの入手を希望する場合は、ソフォスに書面でお申込みいただくか、次のメールアドレスまでご連絡ください: support@sophos.co.jp。または次のリンク先よりご連絡ください: <http://www.sophos.co.jp/support/queries/enterprise.html>。ソフォス製品に含まれ

このようなソフトウェアの使用許諾契約書は、次のリンク先をご覧ください: <http://opensource.org/licenses/cpl1.0.php>。

ConvertUTF

Copyright 2001–2004 Unicode, Inc.

This source code is provided as is by Unicode, Inc. No claims are made as to fitness for any particular purpose. No warranties of any kind are expressed or implied. The recipient agrees to determine applicability of information provided. If this file has been purchased on magnetic or optical media from Unicode, Inc., the sole remedy for any claim will be exchange of defective media within 90 days of receipt.

Unicode, Inc. hereby grants the right to freely use the information supplied in this file in the creation of products supporting the Unicode Standard, and to make copies of this file in any form for internal or external distribution as long as this notice remains attached.

Loki

The MIT License (MIT)

Copyright © 2001 by Andrei Alexandrescu

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

OpenSSL cryptographic toolkit

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL license

Copyright © 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.(<http://www.openssl.org/>)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission.For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay license

Copyright © 1995–1998 Eric Young (ey@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

"This product includes cryptographic software written by Eric Young
(eay@cryptsoft.com)"

The word "cryptographic" can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]